

最新 2024 年 4 月号より抜粋

「新春聯歡会」 盛大に開催

輝かしい華僑華人の新成人 2024 年横浜華僑総会主催新春歓迎会にて

75 周年国慶節実行委員会結成

聯合総会常務委員会 開催

劇場版「再會長江」試写会開催

第三屆東京桜花国際合唱節開催

婦女会 日中友好女性交流会開催

中日ハイレベル フォーラム 開催

要明鶴スキー開催

清明節に祖先を偲ぶ

廣東同郷会熱海へ一泊旅行

中国語なう 127 「英歌舞」 yīng gē wǔ

中国は何故 `中国、? 易 凡

華文教育の「新たな100年」を目指して

学校法人横浜山手中華学園 新理事長に繆雪峰氏就任

熊貓幼稚園 卒園式行われる

小紅 卒園式行われる

「新春聯歡会」 盛大に開催

横浜華僑総会は2月26日、「2024新春聯歡会」を横浜中華街のローズホテル横浜2階の「ザ・グランドローズボールルーム」で開催した。当日は中国大使館の施泳公使、陳巍公使参事官兼総領事、篠原豪衆議院議員などをはじめ多くのご来賓が臨席されたほか、京浜地区の僑団代表と多数の僑胞が参加し、総勢約300名の来場者で会場は熱気に包まれた。

冒頭、中華人民共和国国歌が演奏され、すべての来場者はステージ中央に設置された五星紅旗に注目した。

主催者を代表してあいさつした謝成發会長は、今年横華僑総会が取り組むべき三つの課題を挙げ、僑胞たちと共有した。

1つ目は横浜華僑総会の会則を今の時代に合うように改訂し、法人化への可否を検討すること。2つ目は老朽化が進む横浜華僑総会が現在入居する中華大廈の全面的な改修を施すこと、3つ目は新中国建国75周年の今年の国慶節を盛大に慶祝すること。謝会長はこれらの目標を実現するためにみなさんの力を結集したいと力強く語った。

続いて来賓を代表して登壇した中国大使館の施泳公使は、「一年の計は春にあり」の言葉を引用し、過ぎたばかりの春節休暇に中国国内の旅行者は6326億円の費用を旅行に費やしたと語り、2019年の同期比7.7%増加したと語り、強靱な中国経済の活力を世界に示したと語った。また、2024年は中華人民共和国建国75周年の節目にあたり、僑胞たちが中日両国をつなぐ橋渡し役を果たし、自身の発展を祖国の国造りに結び付け、中国式現代化を推進するために貢献し、あわせて中国式現代化の発展の成果をともに享受しようと述べた。

続いて、昨年国慶節諸行事開催にあたり、物心両面で多大な協力をしてくれた団体や企業が紹介され、その代表らが登壇し大きな拍手で迎えられ、高額寄付者を代表し株式会社忠信商事代表取締役の山口豪氏があいさつし、これからも引き続き力を合わせて華僑社会を盛り上げて行こうと語った。そして施泳公使と謝成發会長を交えて記念撮影をした。

そして今年度古希を迎えられた先輩僑胞が紹介され、この日来場した9名が壇上に上がり、一同からの祝福を受け、楊義智さんが古希を代表し謝辞を述べた、施泳公使と謝成發会長を交えて記念撮影をした。

続いて、今年度二十歳を迎えた僑胞青年が紹介され、やはり一同からの熱烈な拍手に迎えられ21名が壇上に上がった。登壇したのは主に中華学校70届の卒業生で当時の担任であった本間淳也教諭と山本幸司教諭も駆け付け教え子の成長を祝福した。横山悠里さんが新成人を代表し感謝の言葉を述べ、最後に施泳公使と謝成發会長を交えて記念撮影をした。

一連のステージ上のセレモニーが一段落したところで、日本横浜福建経済文化促進会の游群会長が乾杯の音頭を取り祝杯を挙げ、辰年の新春の到来を祝った。

乾杯の発声とともに、会食は始まり、同時に場内には太鼓と銅鑼などの賑やかで軽快なリズムに乗せ、四頭の獅子が登場し、宴会場をくまなく巡り来場者に福をもたらす新年の幸せの舞いを披露した。

獅子舞いに続いて校友会国術団舞踊組による中国舞踊「共度好時光/めでたき日を共に」と「漢代袖舞/袖の舞」の二曲が披露され華を添えた。

そして、昨年の国慶節パレードにも参加した中日友好倶楽部のメンバーが、民族楽器を使って中日の名曲を演奏した。

聯歡会の後半はお楽しみの大抽選会で、多くの企業、団体、個人から賞品提供の申し出があった。

午後8時30分、本会余凱副会長が閉会の辞を述べ、お開きとなった。



施泳公使と謝成發会長



国術団舞踊組による中国舞踊



中日友好倶楽部の民族楽器の演奏

輝かしい華僑華人の新成人

2024年

横浜華僑総会主催新春歓迎会にて

2月26日、ローズホテル横浜にて盛大に開催された毎年恒例の新春歓迎会で、横浜山手中華学校卒業の新成人24名が担任教師と共に登壇し、祝福を受けました。私はその場において、当日の感想や将来の抱負、後輩へのメッセージについて参加者から話を聞きました。

崔澤良君：1月8日の成人式で会えなかった中華学校の同級生と今日会えてとても嬉しいです。医学部に在学中なので、将来は人を助けられる優秀な医者になりたいと思っています。そのために、医療知識を身につけると同時に、コミュニケーション能力を養い、患者さんから信頼される医者になりたいです。

後輩へ：横浜山手中華学校はクラスの人数が少ないけれど、横のつながりがとても強いです。高校や大学に進学しても、一生の友達になりますから。今の友達を大切にしてください。

吉津雪音さん：幸せな人生を送り、将来のために頑張りたいと思います。

後輩へ：未来は楽しいものなので、頑張ってください。

藤江翔宇君：素晴らしい会を開いてくれて、無料で参加できることがとても嬉しいです。山手中華学校に入学して良かったと感じています。非常に幸せです。将来は社会に貢献できる人間になりたいと思います。

後輩へ：頑張ってください。

陳鑫君：今日はこのような会にお招きいただき、抽選会も楽しめました。ありがとうございます。あと2年で社会人になるので、頑張りたいと思います。

後輩へ：これからの大切な時間を大切にしてほしいと思います。

譚優生君：久しぶりにみんなと会えて嬉しかったです。あと2年で大学生活が終わるので、それを楽しみにしつつ、社会に貢献できるように頑張りたいと思います。

後輩へ：ぜひこの会に参加してください。

120年以上の歴史を持ち、日中両国の文化を深く理解している横浜山手中華学校を卒業した新成人たちは、将来、日中友好の架け橋となることが期待されます。

(取材：文化部 程肖梅)

そして、今回の聯歡会のために遠路長崎から横浜へ来られた旧知の感想を尋ねたところ、全体として参加者が少し減っているようだ、高齢者が減った分、低年齢層が増えた感がある、あいさつが少なくなった代わりにアトラクションが豊かになり、従来に比べて雰囲気是和らいた。抽選会がやや長かったのではないかと語っていた。

新春聯歡会関連写真 上から 二十歳を迎えた僑胞青年 古希を迎えられた先輩僑胞 紹介された高額寄付者

75周年国慶節実行委員会結成

4月8日(月)に開催された横浜華僑総会常務理事会において、75周年国慶節を盛大に祝うため、実行委員会が結成され陳宜華副会長が実行委員長に選出された。

千人パレードを行った70周年国慶節を上回る規模の祝賀行事を目指している。会員各位のご協力をお願いいたします。

聯合總會常務委員會 開催

日本華僑華人聯合總會常務委員會議が3月28日(木)大阪華僑總會會議室で開催された。各地の現状が報告され、代表委員大会を7月7日(日)に大阪で開催することが決定された。横浜からは王忠福名誉会長と陳宜華副会長が出席した。

劇場版「再會長江」試写会開催

4月12日(金)より日本公開となる映画「劇場版 再會長江」完成披露試写会が中華人民共和國駐日本国大使館のご厚意により、4月7日(日)に完成披露試写会が大使館で行われた。

上映後に、竹内亮監督、呉江浩大使、本映画に出演する雲南省シャングリラ出身の茨姆(ツームー)によるトークショーが行われた。

陳宜華副会長、張岩松校長、黄巧玲婦女会会長らが招かれた。

第三屆東京桜花國際合唱節開催

4月2日、オペラシティコンサートホールにて第三屆東京桜花國際合唱節がコロナ禍3年の休止を経て開催された。

合唱節はコンクール(12団体出場)とコンサート(華人合唱団13団体と日本人合唱団3団体)、ゲスト詠唱と盛り沢山のプログラムとなった。海外からはアメリカのセントルイス、フランスからの2団体の参加があった。

主催者を代表しプロデュースを行った顔安氏は「今日、在日中国人合唱団、日本人合唱団、欧米の中国人合唱団や舞踊団から400人以上の歌手やダンサー、そして有名な歌手が舞台に結集しています。今夜、この世界一流の東京オペラシティでは、最も若々しいものと最も成熟したもの、最も情熱的で最もプロフェッショナルな声共鳴し、幼いものは成長し、老いたのは若返ります」と述べ参加者にエールを送った。

横浜からは茉莉花女声合唱団が参加、「山在虚无缥缈间」他を熱唱した。

(茉莉花)

婦人会 日中友好女性交流会開催

横浜華僑婦人会（黄巧玲会長）は3月17日、3・8国際女性デーを記念した日中友好女性交流会を婦人会館3階で開催した。神奈川県日中友好協会女性部会（岩美恵子会長）、日中友好神奈川県婦人連絡会（梅沢栄子・番場明子共同代表）との3団体主催によるもので、かねてより交流を続けている3団体が初めて一堂に介しての交流会となった。各団体の会員や友人、在日華人女性交流会（姜春姫会長）の会員の方の参加もいただき、総勢62名の盛会となった。各団体の紹介、歴史、活動報告の後、質疑応答、意見交換が行われた。

黄巧玲会長は「今後とも皆さんと一緒に中日友好を考えて活動してまいりたい」とあいさつをし、閉会となった。

その後会場を中華街・大珍楼に移した懇親会では黄会長が司会を務め、岩美恵子会長・番場明子共同代表・本会李香玳名誉会長3名の乾杯で会は始まった。4テーブル36名の参加者が美味しいお料理に舌鼓を打ち、「大海阿！故郷」を合唱し、県日中友好協会女性部会田島孝子名誉会長の閉会のあいさつで会はお開きとなった。（婦人会）

中日ハイレベル フォーラム 開催

中日両国関係の改善・発展のための人的・文化交流を一層深めることを通じ、中日関係を健全で正しい軌道に押し上げるよう努力すべく、陳永華元駐日大使が呼びかけ、中国公共外交協会代表団の来日を機に、中日ハイレベル人文交流フォーラムを4月10日ホテルニューオータニで開催した。本会陳宜華副会長が出席した。

要明鶴スキー開催

廣東要明鶴同郷会（陸佐光会長）は3月26、27日に1泊2日で青年部主催のスキー旅行を開催した。今回は5年ぶり7回目の開催で総勢68名が参加した。今回の目的地もお馴染みの上越国際スキー場を選んだ、初日は雨模様であったが参加者は想い通りに雪遊びや温泉を楽しんだ。夜には恒例の宴会とカラオケ大会で盛り上がり懇親を深めた。（要明鶴）



清明節に祖先を偲ぶ

「慎終追遠」祖先を敬い故人を偲ぶ清明節を迎え、横浜市中区大芝台にある中華義荘には連日多くの僑胞が家族を伴い墓参りに訪れていた。

四月に入り、中華義荘の敷地内にある桜もようやく満開となり、4月5日は朝からあいにくの花曇りと小雨交じりの天候の中、「孝子賢孫」たちは、生花や線香、供物を携え先祖の墓参りをした。

公益財団法人中華義荘が主催する清明読経供養式が、同日午前11時から地藏王廟で厳かに行われ、昨年の清明節以降に安骨堂に仮安置されていた白木の仮位牌は、供養の後に遺族らの手によりくべられた。

一般社団法人廣東同郷会や廣東要明鶴同郷会は、午前中にそれぞれの会の役員らが中華義荘に参集し、故郷のしきたりにのっとり「三牲（皮付き焼き豚、尾頭付きの鶏や魚などの供物）」や果物を用意し、義荘内の地藏王廟に祀られた地藏王菩薩、中華公墓・安骨堂・后土之神や、歴代会長らの墓前に供え、線香を上げ、先人に感謝の意を伝えるとともにご加護を願い、心からの祈りを捧げた。

廣東同郷会熱海へ一泊旅行

（一社）廣東同郷会（陸煥鑫会長）は3月24日から25日、一泊二日の日程で熱海への春季温泉旅行会を催行した。

コロナ禍で数年間開催を見合せて来たが、今春開催にこぎつけた。

宿泊先に選ばれたのは「ローマ風呂」で有名な熱海温泉のホテル大野屋、参加者は三々五々ホテルに到着し、温泉に浸かるなど思い思いの時間を楽しんだ。

午後六時、総勢約60名の参加者は同ホテルの宴会場「瑞雲」に参集し、朱銘江副会長が廣東同郷会を代表してあいさつし、コロナ禍を乗り越え、多くの会員とその家族が旅行会に参加してくれたことをうれしく思うと述べ、思う存分温泉に浸かり、日ごろの疲れを癒してほしいと語った。

続いて、徐永賛副会長が乾杯の音頭を取り、山海の佳肴に舌鼓を打ちながら、食事を楽しんだ。

夕食会の中盤、今年の新年会の締めくくりで大合唱して大好評だった「明天会更好」を有志らが合唱し、カラオケ大会へと進んだ。

翌日は、それぞれのペースに合わせ、各々帰路に就いた。

中国語なう 127

「英歌舞」yīng gē wǔ

“英歌舞”一词在近年春节期间火爆出圈，一时被冠以“中华战舞”的噱头，甚至漂洋过海，文化输出，在欧美都市引起了巨大的反响。

英歌舞是流行于广东潮汕民间的一种将武术、戏剧、舞蹈、队列糅杂在一起的文艺表演形式，名列非物质文化遗产。英歌与秧歌发音近似，大概是后者的流变。村落中的青壮在节日里集合起来，模仿水浒英雄，或36人，合三十六天罡，或72人，合七十二地煞，或108人，应一百零八星，随着锣鼓节奏，击打短槌或手鼓，同时不断变换舞姿及队列，边舞边前行。每个人都依照梁山泊好汉们画有各自不同的脸谱，穿着代表性的服饰，足踏芒鞋。“鼓上蚤”时迁手持长蛇引导舞阵，红面红须的“霹雳火”秦明、“大刀”关胜，黑面黑须的“黑旋风”李逵在舞阵前领舞，动作威武豪迈。舞阵变幻，表现众好汉攻打大名府解救“玉麒麟”卢俊义的故事，恢弘壮观。让观众的心情随之振奋昂扬，积极向上。

英歌舞本质上是一种“藏武于民”的文化遗产，它要求强健的体魄和很高的组织度，青年们在日常聚在一起长时间的训练。这样，在面对外部敌人时便能迅速地团结在一起抗击，称其为“中华战舞”倒也并不过分。在潮汕，小孩子们从小就沉浸在英歌舞这样的文化中，这和舞狮舞龙是非常相似的。唯有此，男孩们才会带有阳刚之气。

“谁说女子不如男”，英歌舞也有女队，通常表现花木兰或穆桂英的故事，同样动人心魄，一样矫健优美，柔中带刚。

(本号筆者 夷吾)

解説：広東省潮汕地区では、春節(旧正月、今年は2月10日)の頃になると、軽快なリズムを刻む打楽器の音に合わせた伝統舞踊「英歌舞」がお祝いムードを高める。演劇や舞踊、武術が一体となった民間舞踊である「英歌舞」は中国古典文学の「水滸伝」を題材にしており、300年以上の歴史を誇る。また、2006年には、汕頭市潮陽区の「潮陽英歌」が、第一陣の中国国家级無形文化遺産リストに組み込まれた。潮汕地区の「英歌舞」のパフォーマンスは旧暦の1月末まで披露されている。

中国は何故 `中国、？

易凡

われわれ華僑には生まれついてこの方、常に `中国”という一語が身にまとわりついている。祖国のこの呼称が何時に始まり、また、どのように変化してきたのだろうか。日頃はどなたも意に介していないだろうけれども、改めて問われてみると、フォーム、サテ、ハテナ？

中国を文字通りに解釈すれば、`中央の国”と説く人がいる。しかし、ユーラシア大陸の東端に位置している国を `中央の国”、というのはどうだろう。難解というべきか。辛亥革命の後、わが国は `中華民国、と称し、さらに一九四九年以降は `中華人民共和国”と称するようになった。そこで、さまざまな立場にある人々を慮ってとか、あるいは長くて面倒とばかりに、両端を取って `中国”とした、という釈明は安直に過ぎないか。

いやいや、安直に過ぎるとかの生易しい話どころでなく、実に、長くて深〜い物語が背景にあったのだ。

`中国”という二文字が最も早く登場したのは、史書の*《尚書》に、「皇天既付中国民越厥疆土於先王」とありました。その意味は、「天はすでに中国の民とその疆土を先王に授けた」ということです。《尚書》は上古の法令制度・文献などをまとめた現存する最も古い書で、孔子が編纂したと伝えられる。孔子が生きていたのは、今から約に二五〇〇年前の東周の春秋時代でした。ところが、それよりもさらに前の西周の初め頃（約三〇〇〇年前）に作られた青銅器の尊（古代の酒器）に鑄込まれた金文に `中国、という言葉があったのだ。

一九六三年六月某日、大雨の後、陝西省宝鶏市賈村鎮のある農家の庭で、キラリと光るものが見つかり、家の主が掘り出したところ、青銅製の器物が出てきた。値打ちものであると直感した家の主はそれらを収蔵していたが、本当の価値は知らなかった。翌年、この農民が亡くなる間に、これら青銅の器物を廃品回収業者に売ってしまった。その後、幾多の曲折を経て、宝鶏市博物館の幹部がこの宝物を見付け、専門家の鑑定によってこれを `何尊”と名付けた。

何尊の本当の価値は、その荘重大気な造形と神秘にして華麗な装飾紋様もさることながら、より重要であったのは、周成王による新しい都、洛邑（現河南省の洛陽）の建設という歴史的重要事を記載した一二行合わせて一二二文字の銘文を尊の底に見出したことである。銘文そのものも極めて史料価値があるのはもちろん、しかもその中の `余其宅茲中或（國の本字）、自茲乂民”（大意は、余は天下の中央の地に住み、そこから民衆を統治する）の一語に `中国”という最も早い文字記載があったのだ。

少々くどくなるのを承知で、銘文の大意を記しておこう。

周成王五年四月、周王は成周で都城の造営を始め、武王に対して豊福の祭を取り行った。周王は丙戌日に京宮の大室で、宗族の小子（卑属のこと）の何に対し訓誥を行い、こう語った「何の先父公氏が文王につき従い、文王は天の大命を受けて天下を統治した。武王が商を滅ぼした後、この地を天下の中心として、民衆を統治する、と天に告げ祭った。周王は、公氏の功により、何に貝三〇朋を下賜し、何はこれによって尊を作り、以って記念とした。

* 華夏民族（漢族の先祖）形成の初期、天文地理に関する知識に限界があったため、いつも自らの居住地域を「天下の中、即ち「中国」と見なして、他族の居住地域を東・南・西・北の四方と称していた。紀元前二一世紀、最初の王朝である夏王朝の創立は、中国の統一された国家政権の形の誕生を表わしていた。この時の「中国」という概念には、確かな政治的含意ができたというべきであろう。《左伝・哀公七年》の記載によると、「禹、諸侯を塗山に合わせ、玉帛を執る者万国」とあり、夏禹は「天下の共主」と見なされ、その統治する地域は「夏」と称された。なぜ「夏」なのか。《爾雅・釋詁》に曰く：「夏、大也」。《尚書》注に曰く：「冕服彩章（礼服礼帽色彩豊か）を華と曰い、大国を夏と曰う」、「華夏、中国と謂うなり」とある。下って、周王朝の初めには、黄河流域を中心とする華夏地域は「中国」と称され始めていた。「中国」は当初、一つの行政区画上の概念に過ぎなかったわけである。

さて、何尊に鑄込まれた銘文の中の、「中或」の二文字（* 囙）についてだが、中というのは* 指事字（* 六書の一つ、位置・数量といった抽象的意味を直接に表わす）で、甲骨文、金文の字形では、旗竿に似て、上下に旗旗と吹き流しがあしらわれ、旗竿は真ん中に直立し、その本義は中心、真ん中、一定範囲内の程好い位置を指す。「或」は「國」の本字。周時代の金文の早期では「或」とし、字面から言えば、上下二本の横棒に挟まれた円ないし楕円を城とし、右に立つ古兵器の戈と併せてできていて、「干戈を執り 社稷を衛る」ことを表わしている。一つの国には自らに属する城がなければならぬ、のみならず、自らの疆土と臣民を常に守る軍隊もなければならぬ、こうして初めて国と言えることを、当時の人びとはすでに意識していた。後にこの「或」に「口」が加わったのは、国の境界が出来たことを表わし、文字上の自然な変化といえよう。ちなみに、「中国」の周囲を巡るのは、北狄、西戎、東夷、南蛮でした。

史書にある「中国」であれ、何尊にあった「中或」であれ、いずれも華夏民族が統治する中心地域を指すものでした。そして、近現代の国家という概念とは異なって、周王朝時代に数多く使われていた「中国」という呼称には、少なくとも四つの意味が含まれていた。即ち、①地理的意味での所謂「中原」地域、②政治的意味での所謂「天子の国」、③民族的意味での所謂「華夏」民族、④文化的意味での所謂「華夏文明」、というものでした。

東周末期の戦国時代に、戦国七雄のうちの秦が他の六国を併呑して全国を統一し、封建制度を終わらせて、中央集権の一大帝国を築いた。その後を受けた漢王朝は基本的に秦の諸制度を受け継いだ。漢の武帝時代に、漢族が北方の少数民族を撃破してその名を大いに轟かせたが、この時の「中国」は、民族と地域の特徴を具えていたので、漢族人政権の代名詞となった。隋・唐年間になると、万国が来朝し、世界万国の中心にあったと言っても過言ではなくなった。この時代の「中国」は、一つのまとまった国家とそれが統治する民百姓を指していた。中国史上まれな、少数民族がうち建てた政権の元朝では、その統治者は四海包容の精神を広く示すため、漢民族であれ、少数民族であれ、それらがうち建てたそれまでの政権をことごとく中国の王朝と称した。これ以後、「中国」は正統ならびに強大という概念となった。

中国史上、政権側の対外文書で、初めて自称「中国」を使ったのは明王朝であった。明の太祖朱元璋が日本に宛てた国書に：「朕本中國之旧家、耻前王辱、興師振旅、掃蕩胡番、、、」（《明太祖実録》卷之三十九）とあり、「朕はもと中国の旧家にして、前王の辱めを恥じ、兵を興して、、、」というように、蒙古の元朝を追い払った後、全国を平定したものの、周辺は未だいざこざが絶えず、なかでも蒙古の衰退に乗じて倭の海賊、密貿易船が沿岸で跳梁跋扈しているのに手を焼き、折しも山東からの奏上があって、業を煮やしていた太祖が自らの正統を宣明するとともに、倭寇の取り締まりを申し入れたわけだ。もし、聞き入れられなければ、「朕は水軍を諸島に差し向け、その徒を捕絶し、その国に至ってその王（室町幕府の足利將軍か？）を縛する」とまで言っている。さらに、明の後期に中国入りした外国人宣教師の利馬竇（マテオリッチ、イエズス会、イタリア人）もその《中国ノート第二章》で明王朝を「中国 Ciumquo」、あるいは「中華 Ciumhoa」と記していた。

封建王朝が統治していた数千年の間、「中国」は終始正式な国の名称とはならなかった。

古代に言われる「中国」というのは多く「国中」（國之中、古代王朝の中央地域）、つまり君主、帝王が実際に支配できていた王畿の地、京師の地、或いは中原地域を指していた。歴代王朝は変わらずに自らの国号を主とし、人びとも自らを何々国の人（漢人、唐人、清人のように）と称するのみであった。

一九一二年に中華民国成立後、孫中山は「中華民国」の国号を「中国」と略称してから、中国は現代国家の概念で初めて広く使われるようになった。一九四九年、新中国成立後、正式に「中華人民共和国」を「中国」と略称し、中華人民共和国内に住む各民族を全て中華民族と称するようになった、というわけでした。

（* 図）



* 注

《尚書》：上古の法令制度・文献をまとめた現存する最も古い書。孔子が編纂したと伝えられるが、一部の篇・章には後代の儒家が補充したものがあり、《今文尚書》と《古文尚書》の別がある。

六書：書体の一種である小篆に基づいて帰納された六つの造字原則及び用字原則。それは、象形、指事、会意、形声、転注、仮借であり、前四種は造字原則、後二種は用字原則。

指事：六書の一つ。即ち字を造る際に、象徴的な符号を使ってある事物の意義を表わす。例えば「刀」に「勹」を加えて刃を表わし、「木」の下に「一」を加えて本を表わす。

華夏：漢族の古称。また、中国の中原地域。

華文教育の「新たな100年」を目指して

2023年度卒業式 行われる

3月9日、6階体育館で2023年度の卒業式が行われた。小学4年生から中学3年生までの全生徒と教師、来賓、卒業生の保護者が一堂に会し、小学部78期生、中学部75期生計31名の横浜山手中華学校の卒業を祝った。

午前10時、全員が整列し、中華人民共和国の国歌「義勇軍行進曲」が演奏され、張岩松校長から卒業生全員に卒業証書が授与された。

その後、張校長と鄭民財教導部長から、学業優秀賞、1年勤勉賞、3年勤勉賞、9年勤勉賞、3年成績優秀賞、学業努力賞の各賞を受賞した卒業生に賞状と賞品が授与され、在日中国大使館、東京華僑総会、横浜華僑総会、横浜華僑婦女会、横浜関帝廟評議会、校友会、家長会の代表が卒業生に記念品を贈呈した。

張校長が横浜山手中華学校の教師と生徒を代表して「来賓の、大使館や華僑協会の皆様、そして長い間、本校の発展を気遣い、支えてくださった保護者の皆様や各界の皆様に心から感謝の意を表した。

そして、卒業生へのスピーチで、「どこに行っても、どこにいても、皆さんが横浜山手中華学校の卒業生であること、横浜山手中華学校が皆さんの母校であることを忘れないでほしい。横浜山手中華学校はいつまでも皆さんの母校であり、皆さんの故郷であり、心の故郷でもあります。将来、困難に出会っても、また学校に遊びに来て、母校を思う心を持ち、母校の発展を支えてほしい。」中等部卒業生に対しては、「中等部、高等部に進学した後も、わが中華学校の素晴らしい伝統を受け継ぎ、継承してください。百尺竿頭、一步前進！」とあいさつした。

また、曾徳深理事長は本校の理事会を代表して卒業生を祝福し、卒業生を懸命に育てた先生方、保護者の方々、そして支援と激励をくださった来賓の方々に感謝の意を表した。

続いて在日中華人民共和国大使館一等書記官兼領事の王宝峰氏がとスピーチのなかで、本校の中国語教育・指導の成果を確認するとともに、日本の中国語教育の最前線で奮闘している先生方に敬意を表した。同時に、中国語と中国文化を海外に伝えるために、中国語と中国文化の勉強に励み続けるよう学生たちを激励した。そして、卒業生たちのこれからの活躍と健闘を祈った。最後に、中国大使館は今後も横浜山手中華学校の華僑華人教育を支援していくことを表明し、横浜山手中華学校が今後も日本の華僑華人社会、中日友好、祖国建設に貢献し、より大きな成果を上げていくことを期待した。

卒業式は感動に包まれ、卒業生全員が目には涙を浮かべ、心に響く「卒業歌」を歌った。その後、在校生が卒業生に「歓送歌」を贈った。

最後に、教師と生徒全員が深い愛情を込めて「校歌」を歌った。（中華学校）



中学三年①班卒業生と保護者



小学六年①班卒業生と保護者



中学三年②班卒業生と保護者



小学六年②班卒業生と保護者

**学校法人横浜山手中華学園
新理事長に繆雪峰氏就任**

3月31日付けで学校法人横浜山手中華学園の理事長を退任した曾徳深氏に代わり、4月5日に開かれた新年度の学園理事会で副理事長であった繆雪峰氏（36届卒業生）が新たな理事長に選出された。同時に副理事長に張愛玲、陳亮、蕭敬意（順不同）の3氏が選出され、新しい理事会が本格始動した。

熊猫幼稚園 卒園式行われる

熊猫幼稚園は3月15日（金）卒園式を行い、本会謝成發会長が出席した。

小紅 卒園式行われる

保育園小紅は3月23日（土）卒園式を行い、本会謝成發会長が出席した。

訃告

黄煥貞女士（横浜中華学校 5 届生、中華公立学校 17 届生 張師捷氏ご夫人）2 月 28 日に逝去されました。享年 85 歳。

謹んでご冥福を祈ります。

柳慶梅女士（中華学校 14 届生周富南氏ご夫人、42 届生周雁美女士、44 届生周雁貞女士ご尊母）4 月 1 日に逝去されました。享年 81 歳。

謹んでご冥福を祈ります。

東田武雄氏（公益財団法人 中華義荘代表理事）3 月 19 日に逝去されました。

謹んでご冥福を祈ります。